

オンラインによる 2020 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

2020 年度秋季大会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、インターネットを介したオンライン開催とします。

1. 期 日

大会は 10 月 28 日（水）～30 日（金）を含む 1 週間程度の日程で行う予定です。この中で、一般発表，専門分科会，受賞記念講演等を行います。詳細が決まり次第，大会ウェブサイトでお知らせします。

2. 研究発表および聴講

講演者による講演資料のアップロードの後で、聴講者による閲覧・質疑を行うオンデマンド方式（例：ジュニアセッション 2020 WEB 開催）で実施します。講演や議論には学会の G Suite に含まれる Meet や Chat を使用します。G Suite アカウント発行の申請は、会員サイト <https://www.metsoc.or.jp/membersite> で可能です。また、上記に加えて、ウェブ会議システム (Zoom や Meet) を用いたリアルタイムの口頭発表の併用も検討しています。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。

3. 大会ウェブサイト

本大会用の大会ウェブサイトを開設しています。大会参加手続き，講演申込み受付，大会プログラム，発表要領，大会発表規程などの詳細につきましては、大会ウェブサイトにて最新の情報を随時更新していきますので、こちらをご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会ホームページ (<https://www.metsoc.jp/>) をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

本大会告示の後に掲載した「[日本気象学会 大会発表規程](#)」に従って講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、電子メールによる申込を受け付けます。

なお、大会参加登録、参加費・投稿料支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。また、非会員の講演申込は専門分科会に限定していますのでご注意ください（VI. 非会員，団体会員の大会講演について）。

パソコン・タブレット等の端末，インターネット環境等は，各自でご準備ください。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：[2020 年 7 月 21 日（火）15 時（日本時間）](#)
- ・大会ウェブサイトを参照し，指示に従って申し込みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います（前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが，改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい）。この ID とパスワードによって登録システムにログインし，大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・参加費決済などを行います。

- ・個人情報と ID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つの ID で、講演者の異なる 2 件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と参加費・投稿料の払込（クレジットカード決済）を行ってください。大会参加登録と参加費・投稿料の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）に限ります。
- ・大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込締切（7 月 21 日（火）15 時）までは、ウェブサイト上において、一旦申込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締切後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2020 年 7 月 14 日（火）
（オンライン申込に比べて締切日が 1 週間早くなっています。ご注意ください。）
- ・以下の 4 点を講演企画委員会事務局（下記）まで電子メールにてお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿（PDF 形式）
 - ② 講演者氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）、所属、所属略称、会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）、連絡先（住所・電話番号・E-mail アドレス）、講演題目、主・副キーワード、投稿料種別（投稿料 A / 投稿料 B）、その他必要事項を書いたもの（様式は自由）
 - ③ 郵便振替払込受領証のコピー（次項参照）
 - ④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書（フォーマットは以下に掲載）
https://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf
- 送付先：kouenkikaku2020a@mri-jma.go.jp
（件名に「講演申込 2020a」と明記して下さい。）
- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費・投稿料を納入して下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
 - 加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ①「2020 年度秋季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
 - ③投稿料種別（投稿料 A または投稿料 B）
 - ④参加費・投稿料金額
 - ⑤合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担をお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・投稿料は返却しませんのでご注意ください。

- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会 (kouenkikaku2020a@mri-jma.go.jp) までご相談下さい。ただし、非会員による代理発表は認められません。

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。パソコン・タブレット等の端末、インターネット環境等は、各自でご準備ください。

2.1 オンラインによる申込

2020年9月8日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済のみ）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

2.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2020年9月1日（火）

（オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。）

- ・以下の2点を講演企画委員会事務局（下記）まで電子メールにてお送り下さい。

- ① 参加者氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）、所属、所属略称、会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）、連絡先（住所・電話番号・E-mail アドレス）（様式は自由）
- ② 郵便振替払込受領証のコピー（次項参照）

送付先：kouenkikaku2020a@mri-jma.go.jp

（件名に「講演申込 2020a」と明記して下さい。）

- ・参加申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費を納入して下さい。

－口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2020年度秋季大会参加申込」と明記
- ②会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
- ③参加費金額
- ④合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）・電話番号をきれいに記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

3. 参加費、投稿料

3.1 大会参加費、投稿料

- ・参加費と投稿料に分離されています。参加費には大会講演予稿集費が含まれます。
- ・参加費（予稿集費含む、消費税込）は以下の表の通りです。通常の参加費から1,500円低価となります。

種別	参加費
会員	3,500円
非会員	7,500円

- ・投稿料（消費税込）は以下の表の通りです。

投稿料		
種別	1 件	2 件
投稿料 A	6,500 円	11,500 円
投稿料 B	3,000 円	6,000 円

・投稿料の種別：

投稿料 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

投稿料 B：投稿料 A に該当しない講演者による投稿

・投稿料 A の 2 件目の投稿料は 5,000 円に割引されます。

・気象学会会員でない方の講演発表については、「VI. 非会員、団体会員の大会講演について」を参照して下さい。

3.2 その他

・一旦支払われた参加費・投稿料は返却いたしません。

・参加費・投稿料の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどはありません）。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

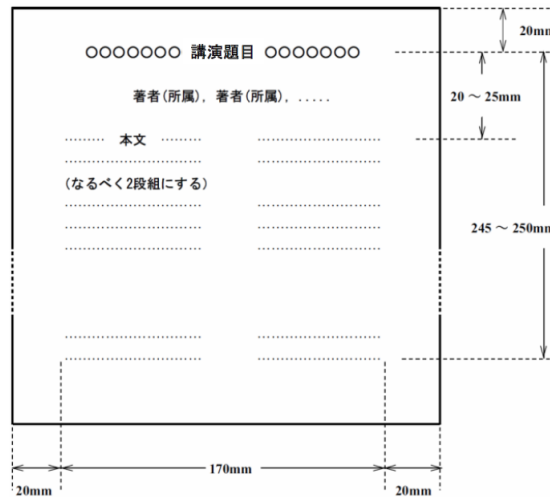
ファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。

3. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。

4. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（公社）日本気象学会に帰属します。



図：A4判用紙による大会予稿原稿の作成要領

IV. 研究発表要領

1. 一般発表の概要

一般発表は、口頭・ポスターの区別はせず、基本的に、次のような単一の形式で行います。講演者は講演資料（PDF や PowerPoint 等）をインターネット上の所定の場所にアップロードし、運営側が大会ウェブサイト上でそれを公開します。聴講者はそれを閲覧します。質疑は、聴講者が講演資料に対してコメントを残し、講演者が返答する形で行います。議論には学会の G Suite に含まれる Meet や Chat を使用します。アカウント発行の申請は、会員サイト <https://www.metsoc.or.jp/membersite> で可能です。より充実した大会にするために、上記に加えて、ウェブ会議システム（Meet や Zoom 等）を併用した概要紹介や双方向議論などの導入も検討しています。詳細については大会ウェブサイトにて公開していきますので、適宜ご確認ください。なお、講演資料の公開および閲覧については10月28日（水）～30日（金）を含む1週間程度の間、自由に行う予定です。

2. 専門分科会の概要

専門分科会も、原則、上記と同じ形式で実施します。世話人の裁量で、所定の時間枠の中でウェブ会議を組むことができます。

- ・専門分科会への講演申込締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は7月21日（火）、電子メール申込は7月14日（火））です。
- ・専門分科会に申込みされた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申込みされた発表が、世話人によって専門分科会に適さないと判断された場合には、講演者が気象学会会員の場合は、一般発表に振り替えます。講演者が非会員の場合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます（VI. 非会員、団体会員の大会講演について）。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

3. 発表件数の制限

1講演者あたりの発表件数は2件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの2件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

4. その他

- ・発表に使用する PC の OS やウェブ会議ソフト、ブラウザは、最新のものにアップデートすることを推奨します。
- ・発表資料のアップロード、公開、質疑応答、チャットとウェブ会議システムの利用に関する詳細は、後日、大会参加者に通知いたします。質問は、講演企画委員会 (kouenkikaku2020a@mri-jma.go.jp) までご連絡ください。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2020 年度秋季大会では下記の通り、4 件の専門分科会が開かれます。

1. 「宇宙からのエアロゾル・雲・降水観測の未来」

趣旨：大気科学において欠かせない観測となった衛星観測は、近年では様々な衛星のデータを組み合わせた研究が盛んになっている。エアロゾル・雲・降水については、必ずしも衛星ミッション設計に分野横断的な視点が活かされてこなかったが、地球温暖化等の課題に対しては、それらを総合的に考えることが必須である。米国の Decadal Survey でも大気科学分野の重要課題として Aerosols and Clouds, Convection and Precipitation (ACCP) が挙げられ、NASA では 2028 年頃の衛星打ち上げを目指した検討が行われている。一方、日本でも高精度降水マップやエアロゾル同化プロダクトなどが社会に広く利用され重要なインフラとなっている。本専門分科会では、エアロゾル・雲・降水の研究者が集い、最新の観測とモデリングの研究成果を共有し、この分野の将来の衛星観測について議論を行う。

世話人：高橋暢宏（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、岡本創（九州大学応用力学研究所）、鈴木健太郎（東京大学大気海洋研究所）、高藪縁（東京大学大気海洋研究所）、西澤智明（国立環境研究所）、樋口篤志（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）、増永浩彦（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、山地萌果（宇宙航空研究開発機構）

2. 「霧研究の現状と展望」

趣旨：古くから霧は、人の生活や環境問題と密接に関わっており、気象観測や数値シミュレーションからアプローチされた研究が多く存在する。地球温暖化などの影響で近年は霧の出現頻度も全国的に減少している報告がある一方で、たとえば航空・船舶・自動車の濃霧による交通障害は今でも突発的に出現し、問題となる。霧は発生メカニズムの違いによって、放射霧・移流霧・蒸気霧・滑昇霧・前線霧などに分類されるが、それらの物理的または化学的特徴が長年にわたり調査されてきた。これまで気象学会では、1998 年度春季大会で霧研究に関する専門分科会が開かれたが、20 年以上が経過し、霧に関する新たな知見と課題の共有が必要と考える。本分科会では、日本および世界の陸上や海上を覆う霧を、現地観測・データ解析・数値シミュレーションなど様々な手法により物理学、化学、さらにはエアロゾルや境界面との相互作用を含めた多様な学術分野の情報交流を推進することを目指す。

世話人：大橋唯太（岡山理科大学）、伊藤純至（東北大学）、堅田元喜（茨城大学）、重田祥範（鳥取環境大学）、菅原広史（防衛大学校）、名越利幸（岩手大学）

3. 「静止軌道からの地球環境観測」

趣旨：約 36,000km 上空で地球の自転と同期して回転する軌道は、赤道上看かけ上静止しているように見える。地球からの距離が遠いという欠点があるが、同一箇所を連続的に計測できる利点を有するため、静止軌道は「ひまわり」や GOES シリーズ等、静止気象衛星の観測位置として定着している。近年の静止気象衛星の機能強化に加えセンシング技術の進化も相まって、静止軌道から地球環境を観測する意義がこれまで以上

に高まっている。本分科会では静止気象衛星（イメージャ）に限らず、静止軌道からの地球環境計測について、会員からの自由なアイデアの提示を通じ、静止軌道からの観測の意義について改めて議論したい。

世話人：樋口篤志（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）、今須良一（東京大学大気海洋研究所）、牛尾知雄（大阪大学工学研究科）、佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）、高橋暢宏（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、高藪縁（東京大学大気海洋研究所）、別所康太郎（気象庁観測部気象衛星課）、本多嘉明（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）、中島正勝（宇宙航空研究開発機構 宇宙利用統括付き）、中島孝（東海大学情報技術センター）

4. 「気象情報高度化時代の「わかる」工夫」

趣旨：観測技術の精度向上・緻密化，計算処理の高速化，通信および保存の大容量化はとどまるところを知らず，今なお現在加速中である。

一方どんなに緻密で充実した気象情報が流通しても，それを受け取った人間が迅速に認識して的確に現状把握し，適切な行動を起こせなければ意味は無い。

人間の五感と理解度，さらには判断力や行動力の現実的な限界値を意識した，気象情報の有効通信情報量の最大化および小型軽量化とスピードアップ等について，あらゆる学術方面からの研究知見の集約と新規構想の議論を展開致したい。

世話人：上田博康（（一社）日本気象予報士会），太田佳似（（一社）日本気象予報士会），岡田登志恵（（一社）日本気象予報士会），岡留健二（（一社）日本気象予報士会），川邊昭治（（一社）日本気象予報士会），楠田雅紀（（一社）日本気象予報士会），佐藤知生（（一社）日本気象予報士会），實本正樹（（一社）日本気象予報士会），難波良彰（（一社）日本気象予報士会），平松信昭（（一社）日本気象予報士会）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら，短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して，講演企画委員会では専門分科会に申込まれた講演が世話人により採用された場合に限り，非会員の講演を認めることとします。非会員が専門分科会に申し込んだ講演が採用されなかった場合は，大会予稿は不採択となり，参加費・投稿料が返却されます（講演者が気象学会会員の場合は，専門分科会で不採用になったとき，世話人と講演企画委員会の判断により一般発表への振替が行われます）。講演企画委員会としては，大会での講演発表を希望される方には，気象学会会員になって頂くようお願い申し上げます。

VII. 団体会員，賛助会員の大会参加について

団体会員，賛助会員は，2名まで個人会員と同等の扱いで大会に参加することができます。講演申込の際には，予稿原稿の著者欄に下記のように団体を記述してください。

〇〇〇会社（講演者*，共著者，・・・）

Ⅷ. 研究会活動への支援について

大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動（一般の会員が自由に参加できるもの）に対し、支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2020a@mri-jma.go.jp）へご連絡下さい。

申込期限：2020年7月21日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催方式（ウェブ会議等）
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

Ⅸ. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。

2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。



3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
2. 一般発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。

3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

X. リクルートブースの設置について

日本気象学会では、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者のキャリア形成をサポートするため、企業の就職担当者と就職を希望する参加者が直接情報交換する場として、ウェブ会議形式のリクルートブースを設置する予定です。参加企業名およびブース開設期間など詳細については大会プログラムとともにお知らせする予定です。

オンライン開催となる 2020 年度秋季大会での講演は、これまでの大会で行われてきた講演（口頭発表及びポスター発表）と同様に扱われ、次の大会発表規程に準拠します。

公益社団法人 日本気象学会 大会発表規程

(公社) 日本気象学会 講演企画委員会

1. 大会の趣旨

- 1.1 日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、学術文化の発達に寄与するために、気象学会大会を春季と秋季の年二回開催し、気象に関する研究会および講演会を行う。

2. 大会参加登録

- 2.1 大会において口頭発表またはポスター発表を行う者（招待講演者も含む）は、あらかじめ大会 WEB サイトを通じて個人情報登録ならびに大会参加登録・参加費決済を行うこと。
- 2.2 大会で講演（口頭発表及びポスター発表）を行うためには、招待講演者の場合を除き、大会予稿を投稿し、講演企画委員会（以下、「委員会」という。）により採択される必要がある。
- 2.3 個人情報登録と大会参加登録は本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。ただし国外からの参加登録、外来研究者による参加登録、インターネットを利用できないなど、本人による登録がやむを得ず困難な場合には、代理人による登録ができる。

3. 大会予稿の作成

- 3.1 大会予稿の形式等に関しては、大会告示案内（大会 WEB サイトに掲載）に従うこと。

4. 著作権の委譲

- 4.1 本予稿原稿の著作権は、日本気象学会常任理事会決定「気象学会の刊行物の著作権委譲の強化について（2013年1月29日付け）」にもとづき、気象学会に委譲するものとする。

5. 大会予稿の投稿

- 5.1 大会予稿の投稿は、発表者が指定された期日までに行うこと。投稿に際しては、共著者の了承を得るとともに、全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書を提出すること。国外からの投稿、外来研究者による投稿など、発表者による投稿がやむを得ず困難な場合には、代理人による投稿ができる。なお、発表者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、それを受理しない。
- 5.2 同一発表者による発表可能件数は、最大二件までとする（招待講演もカウントする）。

6. 審査

- 6.1 委員会は、審査により、大会予稿の採択または不採択を決定する。大会予稿の採択または不採択は、委員会の裁量に委ねられ、以下に示す例のように、大会予稿の内容が気象学会大会発表として不適切だと委員会が判断した場合には、不採択とすることが出来る。
 - (1) 発表内容が他人の研究成果の剽窃と判断される場合、
 - (2) 大会予稿が定められた体裁から著しく逸脱すると判断される場合、
 - (3) 発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合、
 - (4) 発表内容が特定の個人ないし団体を誹謗中傷するものと判断される場合、

(5) 大会の趣旨を逸脱した目的のために投稿がなされたと判断される場合、

(6) その他大会の趣旨に鑑み、発表内容が不適切であると判断される場合

6.2 発表形態（口頭発表またはポスター発表）は、発表者の希望を考慮し、委員会が決定する。

6.3 大会予稿が不採択となった場合には、委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、大会参加料（または参加種別による差額）は返却する。

6.4 不採択の理由を不服とする場合には、発表者本人が一回に限り再審査を申し立てることができる。

7. 再審査

7.1 再審査の申し立ては、申し立て者の氏名・連絡先、講演題目、著者、および再審査申し立ての理由を記載した再審査申立書（様式は任意）を、委員会事務局宛に提出すること。

7.2 再審査申立書の提出は郵送で行い、不採択の通知を受けた日を含む七日間のうちに必着のこと。

7.3 再審査申し立てに際して、大会予稿の変更は認められない。再審査は委員会が行い、結果（採択・不採択）を申し立て者に通知する。

8. 採択後の変更・キャンセル

8.1 採択後に講演内容（講演題目、大会予稿）や発表形態を変更することは認めない。

8.2 病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は、速やかに委員会事務局に連絡すること。発表がキャンセルとなった場合には、大会参加料は返却しない。